



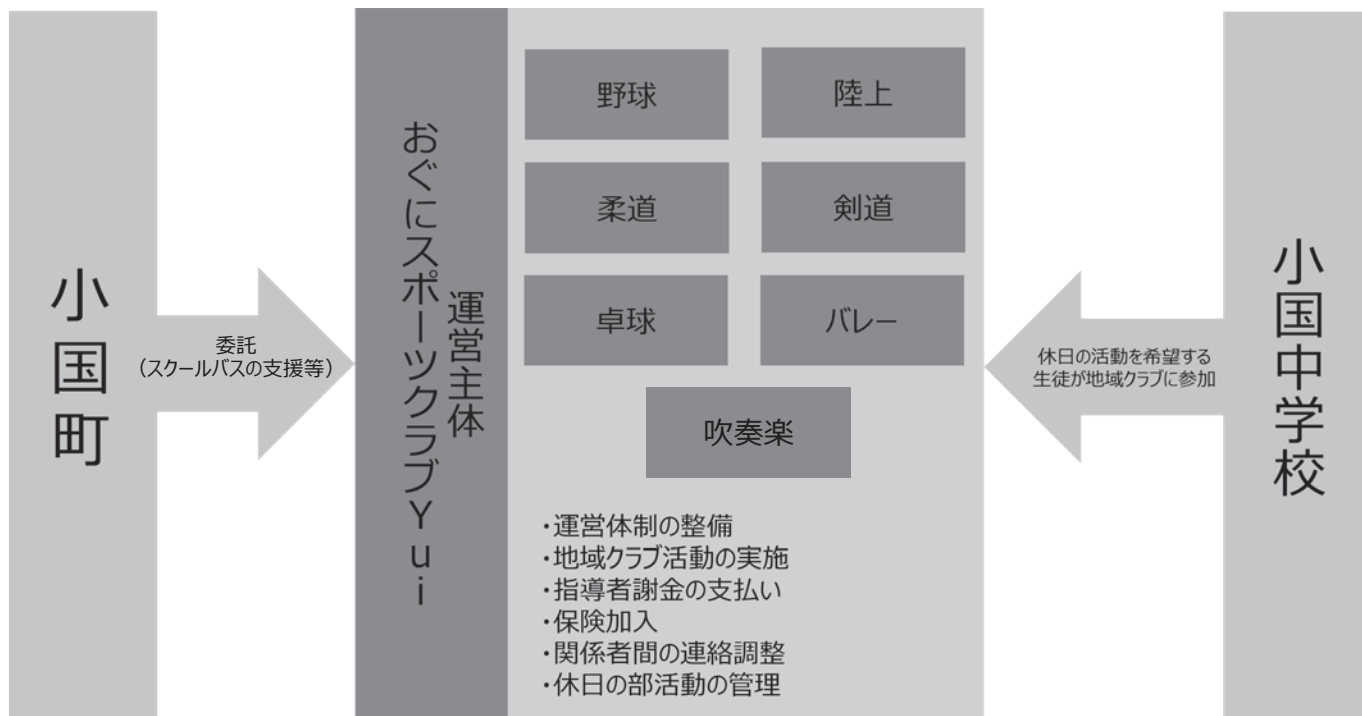
地域とのつながりで さらなるスポーツ活動を ～学校部活動の地域展開とスポーツ振興～



人口減少、少子高齢化など社会環境の大きな変化により、近年、学校の部活動の姿が大きく変わろうとしています。部活動の地域展開が全国的に始められており、新しい動きが進められています。

今回は、部活動を取りまく環境と、本町でも取り組みが進められている「部活動地域展開」の概要と、地域展開に関わるかたのお話をうかがいながら、これからの町内のスポーツのあり方について考えます。

《本町の地域移行による「地域クラブ活動」の運営体制図》 令和6年度の実証事業として行われた際のもので、町が運営主体である「おぐにスポーツクラブYui」に委託する形で進められた。



部活動を取りまく現状

子どもたちの心身の健全な育成や、人間関係の構築などに大きく貢献している「部活動」。これまでは、原則、学校単位での活動と位置づけられてきました。一方で、全国的な少子化による生徒数の減少により学校単位でのチームスポーツのメンバー編成が困難になってきていることや、生徒の特性や希望に応じた部活動選択の多様化などにより、近年、部活動のあり方は大きな転換期を迎えています。

こうした経緯を踏まえ、国では「部活動改革及び地域クラブ活動の推進等に関するガイドライン」を昨年12月に策定しました。この中で、令和8年度からは「改革実行期間」がスタートし、休日の部活動については、原則、すべての部活動にお

いて地域展開をめざすということが示されています。具体的には、部活動は学校教育の一環として、基本的には学校単独で実施することにあわせて、学校と連携して行う「地域クラブ活動」としての位置づけを加え、地方公共団体や多様な組織・団体もその実施主体となることで、スポーツ少年団や競技団体と連携し、チーム編成の維持による持続可能な体制の確保や、生徒に合わせた部活動選択を可能にするものとしています。

本町においても、令和4年度より部活動の地域連携・地域移行に関する実証事業を実施し、令和6年度は町内の総合型地域スポーツクラブを運営主体として、6つの部活動で実証事業を行いました。実施内容としては、町が運営主体に対し業務委託し、スクールバスの支援等を行い、中学生は、

休日の活動を希望する場合に運営主体が実施している地域クラブ活動に参加するという形で進められました。今年度も同様の形で事業に取り組んでいます。

進む地域展開

これまでの部活動の形から段階的に変わりつつある中で、実際の活動における変化や今後の姿について、卓球クラブで指導を行っている運営主体代表の今野祐治さんからは「これまでは部活動の顧問の先生に競技経験がなく、専門的な指導をすることが難しいケースがありました。この度の地域クラブ活動との連携により、外部指導者からの専門的な指導を行うことができるようになったことは、競技力向上の面からも意義のあることであると思います。実際に生徒たちも色々なア

ドバイスを受けて成長しようとする姿勢がみられています。今後は中学生だけでなく、小学生なども含めたクラブ活動を通して、技術向上と地域でのコミュニケーションの機会の場としていきたいと考えています。」とお話をいただきました。小国中学校の卓球部として活動する中学1年生の藤田稜樹さんは「部活動とクラブ活動の両方に参加しています。クラブの指導者から色々なアドバイスを受けて



▲卓球クラブでの活動の様子

技術も上達した実感があります。今まで勝てていないチームに勝ちたいという明確な目標もできたので、その目標を達成するためにこれから練習していきたいです。」とクラブ活動参加による自身の競技に対する意識の変化についてお話しいただきました。

また、これまでも学校と地域の双方において指導を行ってきた野球クラブの指導者小田浩史さん（小国町）は「現在も2週間に1回程度、小学生のスポーツ少年団と中学校の部活動は合同で活動しています。私は長年、スポーツ少年団のコーチとして子どもたちを見ていますが、部活動と合同で行うようになってから、小学生は中学生の技術に加えて、挨拶や返事などの礼儀に対する姿勢なども吸収し、多くの面で成長が感じられるようになりました。こう

したことが地域で活動することの意義だと思っています。今後は、少子化などもあり、単独チームで継続していくということについても検討が必要になると考えていますが、指導者たちで知恵を出しながら、近隣市町村との連携なども含め、子どもたちが野球を続けられる体制づくりをしていきたいです。」とお話しいただきました。同じく野球クラブ指導者の舟山俊喜さん（若山）は「クラブで中学生を指導



▲中学校部活動とスポ少合同で活動が行われている

するということは、スポーツ少年団で小学校からみてきた子どもたちを中学生になっても引き続きみることができ、子どもたちにとっても、指導者から継続して指導を受けられるという点でより良い環境で活動できているのではないかと思います。クラブ活動は部活動と異なり、大会の申込などといったことも自身で行う必要がありますが、子どもたちが真剣に楽しく野球に向き合ってもらえるよう、地盤づくりも頑張りたいです。」と地域主体の活動の利点と指導者としての意気込みについてお話しいただきました。

さらにスポーツを

明治時代から130年にわたり続けられ、同時に私たちの身近な存在であり続けてきた部活動は、学校に

とっても地域にとってもなくてはならない存在であるといえます。近年は、本町出身の生徒が部活動やクラブ活動において、各種全国大会に出場するなど、活躍の場を広げています。部活動に参加する生徒たちが「この競技を小国で続けたい」「もっと上手になりたい」「自分のペースで参加したい」などといった多様な思いに応えるために、今後、部活動における地域の連携はますます重要となります。小国町スポーツ協会の舟山孝夫会長は「少子化が進むなか、子どもたちのスポーツ環境をいかに守っていくのかを考えることが地域スポーツ関係者の使命だと考えています。これから、指導者・行政・学校・保護者が一体となって連携して、部活動地域展開などをはじめとするスポーツ活動に取り組んでいきます。」とお話いただきました。そのため



▲毎年盛り上がりを見せる白い森スポーツフェスティバル

には、生徒たちの活動の受け皿となる地域のスポーツ団体や競技団体のさらなる振興は大変重要です。町としても、引き続き町内各種スポーツ団体・競技団体に対し、指導者育成や環境整備などを目的とした支援や、ニュースポーツ大会や白い森スポーツフェスティバルでの各団体との連携によるスポーツ振興を進めていきます。そして、これからもスポーツにおいて、全国、世界で活躍する「小国っ子」の育成に努めていきます。

白い森ウィンタースポーツ大会が開催されます！

■日 時 2月15日(日) 8時30分～
※荒天等の場合は中止となります

■会 場 横根スキー場

■競技種目

○スキー・スノーボード競技：ジャイアントスラローム種目

○レクリエーション競技：スノータワー競争（雪積み競争）、雪上綱引き

■問合先

教育振興課スポーツ振興担当（☎62-2141）へ

